

研究成果の紹介

シクラメンの1月は種における短期栽培技術

農業研究部園芸グループ

1. 成果の内容

本県のシクラメンを中心とした鉢花経営は、価格が低迷傾向のため収益の安定化に向けて施設の輪作体系の確立が求められています。しかし、シクラメンは栽培期間が長く、は種から出荷まで14ヶ月を要し、施設を長期間占有しており、他の鉢花の導入が難しい現状でした。

そこで、施設の有効利用及び収益の安定を図るため、シクラメンの栽培期間の短縮を目的には種法、育苗条件、鉢上げ後の管理法などについて、12月出荷を前提に商品性を保持した栽培技術を確立しました。

は種は、1月上旬に128穴のプラグトレイを用い、は種後は気温が低いいため15～20℃の温度管理が必要です。

育苗期の管理について、本葉3枚目安に3号ポットへ鉢上げを行います。その時期は4月上旬頃になります。3号ポットへの施肥は、被覆複合肥料(ロング100)を使用し窒素成分0.05～0.25g/3号ポットの施用が適切と考えられます。また、3号ポットへの鉢上げ後は50%程度の遮光によって生育が促進されます。

5号鉢での管理について、鉢替えは本葉10枚程度が確保される7月上旬が適期で、その後は1～2週間程度頭上かん水を行った後で窒素成分40～50ppmの底面給水同時施肥管理条件が適切といえます。また、7月から10月にかけて50%程度の遮光を行うことが品質の向上につながります。

また、有効な植物成長調節剤の利用について、シューベルトは地上部の生育が促進されるB A 50ppm+GA2-4ppm、シュトラウスでは開花の促進効果が得られるB A 50ppmをそれぞれ10月上旬に散布することが適切です。

2 技術の適用効果と適応範囲

北勢地域のシクラメンを中心とした鉢花経営農家

3 普及・利用上の問題点

は種には発芽のための温度を確保する必要があります。

5号鉢上げ時期は高温期のため葉焼け現象に注意する必要があります。

(鎌田正行)



1月は種のシューベルト

確立したシクラメンの短期作型と慣行作型

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
短期作型	○	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
慣行作型	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	○	○	-----

○：は種 ：3号ポット上げ ：5号仕上げ鉢上げ ：出荷
 (注) 慣行作型の10月及び11月上旬出荷はミニ系が中心である